

高等学校 令和6年度（3学年用）教科

国語

科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：3 年次

使用教科書：（「論理国語」数研出版）

教科 国語

の目標：

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
前期	A 論理的な文章を読み、筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解した上で、日本人の美意識について考えさせる。 【知識及び技能】 ・言葉の働きについて理解を深めさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・具体例の共通点・相違点を整理させ、筆者の論旨への理解を深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・コント「伝わらない」が、何を説明するための具体例となっているのかを理解させる。 ・「いき」の条件が「表」「裏」の「二重構造」であることを認識させる。 ・鴨長明・藤原定家の例が想像力を必要とする「幽玄体」に関連していることを理解させる。 ・「二重構造」の捉え方に関して、中世と江戸時代との違いを確認させ、「いき」という美意識について考察を深めさせる。 【教材】 「『いき』の美学」（尼ヶ崎彬）				○				5
	B 文章の種類に応じた段落構成や論理構成、表現の仕方について理解させた上で、文章をまとめさせる。 【知識及び技能】 ・「報告書」に適した文章構成や論理展開、表現の仕方について理解を深めさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・客観性や信頼性の高い資料を用いることで、自分の考えの妥当性を裏付けることができることを理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・一般的な報告書の構成について学ばせる。 ・現代社会を題材とする評論文を読み、課題文への読解を深めさせる。 ・テーマを決め、仮説を立てさせた上で、それを調べるための方法や内容を検討させる。 ・調査結果を適切な方法で集計、分析させ、形式に沿った報告書をまとめさせる。 【教材】 「表現1 報告書を書く」				○				4
	C 文化についての筆者の論理を捉え、現代社会の抱える問題について考察を深めさせる。 【知識及び技能】 ・文章中の例示・具体例の役割について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・例示をもとに筆者の主張を把握した上で、文化の違い、異文化理解について、考察を深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・アメリカ・日本・イスラームの共通点をふまえた上で、「文化の違い」についての筆者の主張の根拠を理解させる。 ・文化相対主義と「文化相対主義」の内容を理解させ、両者の違いを認識させる。 ・自文化中心的な「文化相対主義」の弊害を整理させ、筆者が提唱している内容について理解を深めさせる。 ・「文化相対主義」「多文化主義」に関して、具体例を挙げた上で、そのメリット、デメリットを考えさせる。 【教材】 「文化が違う」とは何を意味するのか？（岡真理）				○				3
	定期考査						○	○		1

前期	D	メディアについての筆者の論理を捉え、現代社会の抱える問題について考察を深めさせる。 【知識及び技能】 ・「物語」と「情報」の対比構造について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・各メディアの利点・欠点を比較した上で、メディアを利用する際の注意点を考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・「テレビ」がどのようなメディアであるかを、『メディア論』の引用から理解させ、メディアがテロルになることを認識させる。 ・マス・メディアが起こす時間感覚の変容を読み取らせる。 ・物語の伝達形式とはどのようなものかを整理させた上で、「経験の交換」、「退屈」という時間意識について理解させる。 ・物語と情報の伝達形式の違いを明らかにさせる。 ・「新聞」「テレビ」「インターネット」について、それぞれの利点・欠点を挙げて比較させ、メディアをうまく利用する方法や利用する上での注意点を考えさせる。 【教材】 「メディアのテロル」 (山田登世子)			○	【知識及び技能】 ・学術的な文章を読んだり論証したりするために必要な語句の意味内容を理解することで、語彙を豊かにしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・各メディアの利点・欠点を比較した上で適切な具体例を挙げ、メディアを利用する際の注意点について考察を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・メディアの特徴を整理した上で、筆者の考えに合う具体的事例を探し、自らの意見を説明しようとしている。	○	○	○	5
	E	労働についての筆者の論理を捉え、現代社会の抱える問題について考察を深めさせる。 【知識及び技能】 ・仮説、検証、主張という論理展開について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・筆者の主張を理解した上で、労働行為とは何かについて考察を深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・労働の意義についての筆者の姿勢を認識させた上で、「否定的なバイアス」について考えさせる。 ・問いの形が、「なぜ働かなくてはならないのか」から「なぜ働くのか」に変わる理由について考えさせる。 ・労働の意義が「道徳観念」にはないことを理解させる。 ・筆者の考える労働の意義を理解させ、人と労働行為との関係について考察を深めさせる。 ・筆者の主張に対する自分の意見をまとめさせる。 ・資料図と資料文の内容をもとに書かれた意見文の内容について意見交換を行わせる。 【教材】 「人はなぜ働かなくてはならないのか」(小浜逸郎) 「資料図 新入社員の働く目的」 「何のために『働く』のか」(姜尚中)			○	【知識及び技能】 ・仮説を立て、検証しながら主張へと導く論理展開について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・筆者の主張を捉えた上で、「アイデンティティ」「社会的存在」「労働行為とはどういうものか」について考察を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・資料図と資料文の内容と意見文とを比較検討した上で、自分の考えを根拠とともにまとめようとしている。	○	○	○	6
	定期考査							○	○		1
	A	社会の枠組みについての筆者の論理を捉えた上で、現代社会の抱える問題について考察を深めさせる。 【知識及び技能】 ・各段落の要旨をまとめ、「民主主義」についての筆者の考えを捉えさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・筆者の主張を理解させた上で、それに対する自分の考えを説明することで考察を深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・「権利の上に眠る」とはどういうことかを理解させる。 ・民主主義とはどのような制度か、近代精神とはどういうものかを理解させた上で、「である」と「する」の二つの図式について考察させる。 ・「である」社会から「する」社会への移行が、なぜ、どのように起こるかを理解させる。 ・日本の近代が持つ「『宿命的』な混乱」について整理させた上で、結果、日本人がどのような状況に置かれることになったかを考えさせる。 ・「する」価値と「である」価値との倒錯はなぜ起こったのか、考察を深めさせる。 ・価値倒錯を再転倒するためには何が必要かを考えさせる。 ・「相談コーナー」に寄せられた高校生の投稿と、寄田清一の回答を読み比べ、「自己目的化」について考察させ、自分の意見をまとめさせる。 ・ズームアップ「『近代』とは何か？」を読み、人間と自然・社会・宗教との関係について理解を深めさせる。 【教材】 「『である』ことと『する』こと」(丸山眞男) 「『近代』とは何か？」			○	【知識及び技能】 ・文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解した上で各段落の要旨を踏まえ、「民主主義」についての筆者の考えを捉えている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・民主主義の特徴について理解し、筆者の考えを捉えた上で「価値倒錯」について考察を深め、日常生活の事柄と関連づけながら自分の考えを述べている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・関連する二つの文章を読み比べることで「自己目的化」の意味を考え、自分の意見をまとめようとしている。	○	○	○	10

後期	B 「図書館」について書かれた二つの文章を読み、共通点と相違点を読み取らせる。 【知識及び技能】 ・それぞれの主張とその根拠を整理させた上で、共通点と相違点を読み取らせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・二つの文章の立場を理解した上で「図書館のあり方」について考察を深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・二つの文章を読み比べ、共通して述べられていることについて整理させる。 ・図書館のあり方に関して、二つの文章のそれぞれの筆者の主張の異なる点について整理させる。 ・二つの文章の比較をもとに、図書館のあり方について自分の考えをまとめさせる。 【教材】 「人と共に在る図書館の未来は明るい」(高橋真太郎) 「図書館と『ものがたり』」(嶋田学)			○	【知識及び技能】 ・設定した題材に関連する二つの文章や資料を基に、「図書館のあり方」について、それぞれの筆者の考え方を捉え、その共通点・相違点を読み取っている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・主張とその前提や反証など、情報と情報の関係について理解し、「図書館のあり方」について考察を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・それぞれの筆者の主張の異なる点について比較し、自分の意見を根拠とともに述べようとしている。	○	○	○	3
	C 抽象的な表現で述べられた筆者の主張を具体的に説明させる。 【知識及び技能】 ・筆者の問題提起を読み取らせ、その主張を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけることを通して、自分の考えを深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・「意志」が「謎めいた概念」、「曖昧な概念」であるとはどういうことかを理解させる。 ・「意志」と「選択」の違いを理解させた上で、筆者の指摘について考えさせる。 ・筆者による「選択」と「意志」の区別を認識させた上で、「意志」という語を用いる際に陥る混乱について考察を深めさせる。 【教材】 「意志と選択」(國分功一郎)			○	【知識及び技能】 ・「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張を捉えている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・意志と選択を混同している例を具体的に捉えた上で、他者との意見交換を通じて多様な論点、異なる価値観と結びつけて自分の考えを深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・意志と選択を混同している例を具体的に考え、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。	○	○	○	3
	D 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語彙力を高め、語感を磨かせる。 【知識及び技能】 ・説明的文章の理解のために必要な語句を学ぶとともに、その概念について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「物心二元論」について理解させ、現代社会の抱える問題について考察を深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・問題提起の内容を把握した上で、「生態系」について記されている結論部分との対応を考えさせる。 ・「物心二元論」について、一般的な意味と本文における意味を捉えさせる。 ・「物理学の世界」と「知覚世界」の特徴を理解させた上で、「近代の自然観」と「近代の人間観」の共通点をまとめさせる。 ・「近代科学の自然観」と相反する点をまとめさせ、「悲劇的帰結」に至る展開について考察を深めさせる。 【教材】 「環境と心の問題」(河野哲也)			○	【知識及び技能】 ・機械論的自然観、原子論的な還元主義、物心二元論といった哲学的概念について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「物心二元論」の起源や考え方を理解した上で、その功罪について、現代社会における具体的事例を挙げながら考察を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「物心二元論」について主体的に調べ、考察を深めるとともに、現代社会についての自分の考えをまとめようとしている。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
	E 論の展開を踏まえ、逆説的な表現の内容を捉え、筆者の主張を理解させる。 【知識及び技能】 ・抽象的な表現を、本文の内容に沿ってわかりやすく言い換えることで理解を深めさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・論証の過程を捉えさせることで筆者の主張を読み取らせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・「顔は誰のものか？」という問いから生まれるさまざまな問題について整理させる。 ・「顔」が自分の意のままにならないものであるという論の展開を理解させる。 ・「顔を所有すること」が逆に「顔に所有されること」になるという論の展開を理解させる。 ・「非所有のままであることを許さない現象であるらしい」と筆者が述べる理由について考えさせる。 【教材】 「顔の所有」(鷺田清一)			○	【知識及び技能】 ・引用という表現技法の働きを、引用以外の文章との関連性から捉えることで、抽象的な表現や逆説的な表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「顔は誰のものか」という問いに対する筆者の考えを捉え、「顔に所有される」ことの意味について考察を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・逆説的な表現について理解した上で、筆者の主張の内容やその根拠をわかりやすく説明しようとしている。	○	○	○	4

F	統計資料と文章を関連づけて読み解き、自分の考えを論述させる。 【知識及び技能】 ・資料・文章それぞれから情報を読み取る方法について学ばせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・資料・文章から読み取った情報と自分の考えを関連づけて説明させ、理解を深めさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・「資料1」「資料2」「資料3」のグラフと表で示されている内容について整理させる。 ・日本の若者が持つ「自分自身のイメージ」についてどのようなことがわかるかを考えさせる。 ・「資料4」から読み取れる内容について整理させる。 ・「希望を語る」の本文、取り上げられている表から読み取れる内容について整理させる。 ・希望はどのように形成されるかという問いに対する筆者の考えについて考えさせる。 ・日本の若者が「将来への希望」を持つために必要なことについて、自分の意見をまとめさせる。 【教材】 「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」 「希望を語る」（玄田有史）		○	【知識及び技能】 ・資料から読み取った内容と、文章から読み取った内容を関連づけて考察している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・統計資料から、日本の若者が持つ「自分自身のイメージ」について読み取っている。 ・「希望」が形成される過程を文章から読み取り、将来への希望を持つために必要なことについて考察を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・資料・文章から読み取れることを整理し将来への希望につながる事柄に関して、自分の考えをまとめようとしている	○	○	○	6	
G	筆者の考えを踏まえ、自分の考えと比較しながら話し合うことで、考察を深めさせる。 【知識及び技能】 ・筆者が文中で用いている言葉について、適切に捉えることで、筆者の考えを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・具体例を手がかりにして筆者の主張を読み取らせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・『一言芳談抄』の一節の内容を理解させた上で、比叡山での経験を筆者がどのように捉えたのかについて、その思考の過程を読み取らせる。 ・自分を動かした美しさがどこへ消えたのかを考察する筆者の思考の過程を読み取らせる。 ・「死んでしまった人間」と「生きている人間」との対比を意識させ、筆者の考える「歴史」について理解させる。 ・筆者が述べる「無常」と「常なるもの」について、本文全体の内容をふまえて整理させる。 ・筆者の考える「歴史」と、自分の考える「歴史」を比較しながら、筆者の主張に対する自分の意見をまとめさせる。 【教材】 「無常ということ」（小林秀雄）		○	【知識及び技能】 ・「解釈」「記憶」「思い出」などの語を適切に捉え、筆者の述べている内容について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「美」や「無常」について筆者がどのようなことを言おうとしているのかを、具体例を手がかりに捉え、考察している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・筆者の考える「歴史」について、自分の考える「歴史」と比較し、他者と話し合うことで考察を深めようとしている。	○	○	○	4	
H	目的や意図に応じた適切な題材を検討することの意義について考えさせる。 【知識及び技能】 ・本歌取りの表現手法を説明し、文章の効果的な組み立て方について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本歌取りの表現手法について理解を深めさせ、本歌取りに対する筆者の考えを読み取らせる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・俊成の批評の内容とその意図、引用が持つ役割を理解させ、歌の解釈がどのように変わるかについて考えさせる。 ・「本歌取り」によって表現が重層化することを理解させる。 ・「本歌取り」についての筆者の定義をふまえた上で、定家の理論について考察を深めさせる。 ・「本歌取り」とはどのようなものかをまとめた上で、先人の作品を利用し独自の作品に仕上げている作品や表現の例を挙げさせる。 【教材】 「本歌取り」（永田和宏）		○	【知識及び技能】 ・具体例のどのような点が、「受け手が想起することではじめて成立する表現手法」となっているのかを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・筆者の主張を踏まえ、目的・意図に応じた適切な例を提示することの意義について自分の考えを深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・先人の作品を現代の読者に喚起する表現の例を具体的に考え、文章にまとめようとしている。	○	○	○	4	
I	文章の種類に応じた段落構成や論理構成、表現の仕方について理解させた上で、文章をまとめさせる。 【知識及び技能】 ・「小論文」に適した文章構成や論理展開、表現の仕方について理解を深めさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自分や他者の書いた文章を評価することが改善につながることを理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・課題に沿った言語活動を行わせることで、学習内容の理解を深めさせる。	【指導内容】 ・小論文作成の手順や要点を理解させる。 ・「話し方が人間関係に与える影響」について、自分の意見をまとめさせる。 ・常体での文体統一、語彙の選択に留意しながら、「序論・本論・結論」という基本的な構成で小論文を書かせる。 ・推敲する際の観点を認識させた上で、他の生徒の書いた文章を読み、相互評価を行わせる。 ・ズームアップ「評論テーマの理解を深める」を読み、「近代」「現代」「ポストモダン」について、理解を深めさせる。 【教材】 「表現2 小論文を書く」 「評論テーマの理解を深める」		○	【知識及び技能】 ・「小論文」に適した文章構成や論理展開、表現の仕方を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・相互評価がもつ機能について理解した上で、他者の文章を評価し、自分の文章の推敲へとつなげている。 【学びに向かう力、人間性等】 ・読み手を意識した構成・展開を積極的に考え、説得力のある文章を書こうとしている。	○	○	○	5	
定期考査						○	○		1	
				25	41					合計
										70

高等学校 令和6年度 教科

教科 保健体育

科目 体育

教科： 保健体育

科目： 体育

単位数： 2 単位

対象学年組： 第3学年1～7組

使用教科書： (ステップアップ高校スポーツ 大修館書店 保健体育)

教科 保健体育

の目標：

【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、個人・チームの課題を把握し解決する方法を見つけ、指導ノートを作成・実践する。また、課題を自らに照らし合わせて、指示を聞き、理解し、的確に質問し、主体的に取り組む。

【思考力、判断力、表現力等】

個人やチームの課題解決に向け、メンバーが理解しやすいように工夫し、具体的に指導ノートに示す。また、メンバー同士で適宜確認し合い、教え合うことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたって継続して運動に親しむために、主体的に物事に取り組む。また、自らの考えを他人に理解してもらえるようにわかりやすく説明できる。他者と協力する態度を身につける。

科目 体育

の目標： 目標達成に向けた課題を見つけ出し、解決方法を具体的にノートにまとめ、互いに協力する態度を育む

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
選択した種目の到達目標に実現に向けて、指導ノートを作成し、実践する技能を身に付ける。(輪番)	選択した種目に対する目標達成のための課題を見つけ出し、グループにとっての解決方法を指導ノートにまとめ、実践する。その結果、他者に伝える力を養う。	選択した種目の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
前期	【知識及び技能】 ①担当リーダー（輪番）は、グループの目標達成に向けた課題に対する練習内容を具体的なかつ段階的に指導ノートとしてまとめる。 ②チームメンバーは、自らの課題や・チームとしての課題を理解し、リーダーに協力し、主体的に取り組む。また、技術の名称やルール、特徴を理解するとともに、審判法を理解し、自主的にゲームを進行できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ①担当リーダー（輪番）は、指導ノートの内容に沿って実践する。メンバーに伝わる工夫をする。 ②チームメンバーは課題を理解し、リーダーの課題解決に向けた実践を、主体的・協調性をもって取組む。 【学びに向かう力、人間性等】 ①担当リーダーは、チーム全体の課題を個人・チームの両面から考えて課題解決に向けた具体的な内容で指導ノートを作成し、実践する。②チームメンバーはグループの課題に関して自ら考え、主体的に課題解決に取り組む。また、ゲームを自ら運営・実践できる知識と能力を育む。	【指導事項】 ・オリエンテーション ・種目選択 ・グループ作成 ・目標設定 ・ペア決め（輪番リーダー） ・担当時間の指導ノートの作成（前日指導） 担当時間の指導ノート実践（当日指導） ・本時の反省 ・次回への引継ぎ 【教材】 ・生徒作成指導ノート ・ステップアップ高校体育（大修館）	【知識・技能】 ①担当リーダー（輪番）として、の課題を理解し、その解決方法を順序だてて、具体的に指導している。また、指導ノートの内容をメンバーに的確に指示できている。工夫して伝えている。 ②チームメンバーは個人及びチームの課題を理解し、リーダーの指示を理解し、協力して主体的に活動動している。 【思考・判断・表現】 ①担当リーダー（輪番）は指導ノートを再現する。また、必要に応じて、メンバーが理解し、活動しやすい工夫を行う。②メンバーは、担当リーダーの説明を理解する。また、不明な点を質問する。取組に対して協調性を持ち、積極的に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 ①担当リーダーは、メンバーが活動内容を理解し取組んでいるか確認する。 ②メンバーは、指示を聞き、理解し、不明な点は確認し、主体的に取り組む。③用具やボール等の接触事故が起きないように安全を確保しながら活動することができている。また、ゲームを企画・運営する。	○	○	○	36
後期	【知識及び技能】 ①担当リーダー（輪番）は、グループの目標達成に向けた課題に対する練習内容を具体的なかつ段階的に指導ノートとしてまとめる。 ②チームメンバーは、自らの課題や・チームとしての課題を理解し、リーダーに協力し、主体的に取り組む。また、技術の名称やルール、特徴を理解するとともに、審判法を理解し、自主的にゲームを進行できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ①担当リーダー（輪番）は、指導ノートの内容に沿って実践する。メンバーに伝わる工夫をする。 ②チームメンバーは課題を理解し、リーダーの課題解決に向けた実践を、主体的・協調性をもって取組む。 【学びに向かう力、人間性等】 ①担当リーダーは、チーム全体の課題を個人・チームの両面から考えて課題解決に向けた具体的な内容で指導ノートを作成し、実践する。②チームメンバーはグループの課題に関して自ら考え、主体的に課題解決に取り組む。また、ゲームを自ら運営・実践できる知識と能力を育む。	【指導事項】 ・オリエンテーション ・種目選択 ・グループ作成 ・目標設定 ・ペア決め（輪番リーダー） ・担当時間の指導ノートの作成（全日指導） 担当時間の指導ノート実践（当日指導） ・本時の反省 ・次回への引継ぎ 【教材】 ・生徒作成指導ノート ・ステップアップ高校体育（大修館）	【知識・技能】 ①担当リーダー（輪番）として、の課題を理解し、その解決方法を順序だてて、具体的に指導している。また、指導ノートの内容をメンバーに的確に指示できている。工夫して伝えている。 ②チームメンバーは個人及びチームの課題を理解し、リーダーの指示を理解し、協力して主体的に活動動している。 【思考・判断・表現】 ①担当リーダー（輪番）は指導ノートを再現する。また、必要に応じて、メンバーが理解し、活動しやすい工夫を行う。②メンバーは、担当リーダーの説明を理解する。また、不明な点を質問する。取組に対して協調性を持ち、積極的に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 ①担当リーダーは、メンバーが活動内容を理解し取組んでいるか確認する。 ②メンバーは、指示を聞き、理解し、不明な点は確認し、主体的に取り組む。③用具やボール等の接触事故が起きないように安全を確保しながら活動することができている。また、ゲームを企画・運営する。	○	○	○	34
							合計 70

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科		外国語		科目 英語コミュニケーションⅢA	
教 科： 外国語	科 目： 英語コミュニケーションⅢA	単位数： 2	単 位		
対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組					
使用教科書：（ MY WAY English Communication Ⅲ・MY WAY English Communication Ⅲ WORKBOOK・VALUE 1400・総合英語 be Voyage to English Grammar ）					
教科 外国語	の目標：				

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

[illegible]

[illegible]

單位數： 2 單位

使用教科書：（ 「英語構文ノート84」 「HyperListening Pre-Advanced 4th Edition / Dictation Note」 「Four Corners Second Edition」 ）

【知識及び技能】	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りをとおして必要な情報を得たりすることができる。文法・イディオムなどの知識 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができる。 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。読解・作文・リスニングにより文法・イディオムなどの知識を増やす。	ディベートやディスカッションなどの活動をとおして、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 スピーチやプレゼンテーションなどの活動をとおして、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。 基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができる。英語の感覚や英語で思考する力を高める。	自分が話したいと思っている内容が対話している相手に伝わるように、積極的に対話を続けようとすることができる。 相手の話す内容や質問に対しても、きちんと耳を傾け、適切な相槌をうちながら、正確に伝わるまで根気よく答えたり、聞き返したりすることができる。 クラスメートに基本的な情報を整理し、まとまりのある内容をわかりやすい英語で表現し、前向きに根気よく話そうとすることができる。 基本的な情報を整理し、英語表現をわかりやすくしよと努めながら、まとまりのあるパラグラフを根気よく書こうとしている。英語で考える力を磨く。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価の観点・方法	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 「や 」	話 「発 」	書					
導入	英コミュニケーションの進捗説明をする。						提出物や範囲・日程、評価方法などについて理解している。			○	1
L1 英語理解と表現のコツ① 【知識及び技能】日本語の構造と異なる後置修飾について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】主語と動詞の確認：英文理解の基本である主語と述語動詞を明確に把握している。 【学びに向かう力、人間性等】主語と動詞の確認：英文理解の基本である主語と述語動詞を積極的に把握しようとしている。	主語と動詞の確認：英文理解の基本である主語と述語動詞を明確に把握する。日本語の構造と異なる後置修飾について理解を深める。	○	○	○	○	○	後置修飾について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	1
Listening	Short Scenes						表現の言い換え				
L2 it 構文①【知識及び技能】itとto不定詞を含む文を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】形式主語Itを文頭に置き、真主語to不定詞で内容を表現する構文を活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】形式主語Itを文頭に置き、真主語to不定詞で内容を表現する構文を積極的に活用し伝えようとしている。	It is ～ to do 「…するのは～だ」 It takes + 人 + 時間 + to do 「…するのに時間がかかる」 / It costs + 人 + 金額 + to do 「…するのにお金がかかる」	○	○	○	○	○	形式主語と真主語について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	3
Dictation	How about?						Would you mind?				
L3 it 構文②【知識及び技能】itとthat節を含む文を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】形式主語Itを文頭に置き、真主語that節で内容を表現する構文を活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】形式主語Itを文頭に置き、真主語that節で内容を表現する構文を積極的に活用し伝えようとしている。	It is ～ that… 「…するのは～だ」 It is said that … 「…と言われている」 / It seems that … 「…らしい」	○	○	○	○	○	形式主語と真主語について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	3
Listening	Description						身体的部位				

L4 it 構文③【知識及び技能】形式目的語のitや協調構文を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】形式目的語のitでto以下やthat以下の内容を表現する構文を活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】形式目的語のitでto以下やthat以下の内容を表現する構文を積極的に活用し伝えようとしている。	find it ～ to do 「…するのは～だと思ふ」 make it ～ to do 「…するのを～にする」 take it for granted that … 「…ということを当然のことと思う」強調構文It is ～ that… 「…するのは～だ」	○	○	○	○	○	形式目的語itと協調構文について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	3
Dictation	Do you know?						I'll show you.				
L5 不定詞①【知識及び技能】不定詞を使った目的や程度などを示す表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】不定詞を使った目的や程度などを示す表現を活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】不定詞を使った目的や程度などを示す表現を積極的に活用し伝えようとしている。	in order to do [so as to do] 「…するために[…するように]」 too ～ to do 「～すぎて…できない」 ～ enough to do 「…できるほど～[…するのに十分～]」 疑問詞+to do	○	○	○	○	○	不定詞を使った目的や程度などを示す表現について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	3
Listening	Announcement						音のつながり				
L6 不定詞②【知識及び技能】be動詞やseemなどを伴う不定詞の表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】be動詞やseemなどを伴う不定詞の表現を活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】be動詞やseemなどを伴う不定詞の表現を積極的に活用し伝えようとしている。	be to do 予定/義務/意図/可能/運命 seem to do 「…する[である]ようだ」 / seem to have done 「…した[だった]ようだ」 独立不定詞	○	○	○	○	○	be動詞やseemなどを伴う不定詞の表現について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	1
Dictation	scheduled to						due to				
L7 不定詞③【知識及び技能】不定詞を使った依頼表現、使役動詞、知覚動詞の表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】不定詞を使った依頼表現、使役動詞、知覚動詞の表現を活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】不定詞を使った依頼表現、使役動詞、知覚動詞の表現を積極的に活用し伝えようとしている。	ask+人+ to do 「人に…するように頼む」 tell+人+to do 「人に…するように言う」 使役動詞(have, make, let)+A+do 知覚動詞(hear, see)+A+do[-ing / done]	○	○	○	○	○	不定詞を使った依頼表現、使役動詞、知覚動詞の表現について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	3
Listening	Lecture 1						受動態				
L8 動名詞①【知識及び技能】目的語に動名詞をとる動詞、動名詞を使った表現について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】目的語に動名詞をとる動詞、動名詞を使った表現について活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】目的語に動名詞をとる動詞、動名詞を使った表現について活用し伝えようとしている。	目的語に動名詞をとる動詞: mind, enjoy, give up avoid, finish, escape, put off, stop look forward to -ing 「…することを楽しみに待つ」 / be used to -ing 「…することに慣れている」 no use -ing 「…しても無駄だ」 / worth -ing 「…する価値がある」	○	○	○	○	○	目的語に動名詞をとる動詞、動名詞を使った表現について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	1
Dictation	must not be used						has been used				
Review	L1 to L8		○			○					4
前期中間定期考査											1
L9 動名詞②【知識及び技能】あとに不定詞が続くか、動名詞が続くかで意味が異なる動詞について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】あとに不定詞が続くか、動名詞が続くかで意味が異なる動詞について活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】あとに不定詞が続くか、動名詞が続くかで意味が異なる動詞について活用し伝えようとしている。	remember to do 「(それよりあとに行うことを)忘れずに…する」 / remember …ing 「(それより前に)…したことを覚えている」 How about …ing ? 「…しませんか?」 / can't help …ing 「…しないではいられない」 On …ing 「…したとたん」 / There is no …ing 「…することができない」	○	○	○	○	○	あとに不定詞が続くか、動名詞が続くかで意味が異なる動詞について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	3
Listening	Diagrams 1						図表1				
L10 分詞①【知識及び技能】形容詞の働きをする現在分詞(-ing)、過去分詞(done)について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】形容詞の働きをする現在分詞(-ing)、過去分詞(done)について活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】形容詞の働きをする現在分詞(-ing)、過去分詞(done)について活用し伝えようとしている。	At+ing 「…しているA」 / A+done 「…されたA」 have + A + done 「Aを…してもらう」(受益) / 「Aが…される」(被害) spend + A (時間)+ -ing 「…するのに時間を費やす」 / with + A + -ing [done] (付帯状況)	○	○	○	○	○	形容詞の働きをする現在分詞(-ing)、過去分詞(done)について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	3

Dictation	Are there any seats left for						tried to give up ...ing					
L11 分詞②【知識及び技能】分詞構文を使って、副詞節の接続詞や主語を省いて動詞を-ing 形にしてまとめる表現について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】分詞構文を使って、副詞節の接続詞や主語を省いて動詞を-ing 形にしてまとめる表現について活用し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】分詞構文を使って、副詞節の接続詞や主語を省いて動詞を-ing 形にしてまとめる表現について活用し伝えようとしている。	分詞構文 -ing ① 「…なので」 ② 「…しなくて」③ 「…しながら」④ 「…して」having done 「(それ以前に)…したので」/ (being) done 「…されると」 独立分詞構文	○	○	○	○	○	分詞構文を使って、副詞節の接続詞や主語を省いて動詞を-ing 形にしてまとめる表現について理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	○	1
Listening	Time						時間・時間の計算					
L12 英語理解と表現のコツ② 【知識及び技能】英語表現で間違いやすい用法、英文のなかの主述関係を確認・理解している。 【思考力、判断力、表現力等】英語表現で間違いやすい用法、英文のなかの主述関係を確認・把握し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】英語表現で間違いやすい用法、英文のなかの主述関係を確認・積極的に把握し伝えようとしている。	英語表現で間違いやすい用法(時制の一致/間接疑問文/状態動詞と動作動詞) SVC とSVOC(O=Cの主述関係)	○	○	○	○	○	英語表現で間違いやすい用法、英文のなかの主述関係を確認・理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	○	1
Dictation	time						time					
L13 関係詞① 【知識及び技能】関係代名詞の主格、所有格、省略の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】関係代名詞の主格、所有格、省略の用法を理解し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】関係代名詞の主格、所有格、省略の用法を理解し伝えようとしている。	主格の関係代名詞 who / which / that 所有格の関係代名詞 whose 関係代名詞の省略(目的格のみ)	○	○	○	○	○	関係代名詞の主格、所有格、省略の用法を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	○	1
Listening	News						つながる音					
L14 関係詞② 【知識及び技能】前置詞を伴う関係代名詞と関係副詞の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】前置詞を伴う関係代名詞と関係副詞の用法を理解し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】前置詞を伴う関係代名詞と関係副詞の用法を理解し伝えようとしている。	前置詞を伴う関係代名詞 関係副詞 where / when / why	○	○	○	○	○	前置詞を伴う関係代名詞と関係副詞の用法を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	○	1
Dictation	If the wind had been blowing to						the area where there are lots of shops					
L15 関係詞③ 【知識及び技能】関係詞の非限定用法、関係詞を用いた様々な表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】関係詞の非限定用法、関係詞を用いた様々な表現を理解し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】関係詞の非限定用法、関係詞を用いた様々な表現を理解し伝えようとしている。	非限定用法～, which... / ～, where...など what + S + V 「～するもの[こと]」 whatever 「～なら何でも」	○	○	○	○	○	関係詞の非限定用法、関係詞を用いた様々な表現を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	○	1
Listening	Adjustment						属性の判断					
L16 助動詞① 【知識及び技能】助動詞のhad better / would rather / used toを用いた様々な表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】助動詞のhad better / would rather / used toの関係詞の非限定用法、関係詞を用いた表現を理解し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】助動詞のhad better / would rather / used toを用いた様々な表現を理解し伝えようとしている。	had better do 「…したほうがいい、…しないとまずい」(忠告) would rather do 「むしろ…したい」/ may [might] as well do 「…するのがよさそうだ」 used to do 「かつては…していた[だった]」/ only have to do 「…しさえすればよい」	○	○	○	○	○	助動詞のhad better / would rather / used toを用いた様々な表現を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	○	1
Dictation	We won't change						scientists have pointed out					
Review	L9 to L16		○			○						4
前期期末定期考査												1
L17 助動詞② 【知識及び技能】ていねいさを表す助動詞、過去のことに対する推量を表す助動詞を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】ていねいさを表す助動詞、過去のことに対する推量を表す助動詞を理解し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】ていねいさを表す助動詞、過去のことに対する推量を表す助動詞を理解し伝えようとしている。	could, would を使って「ていねい」「ひかえめ」な表現にする。 may have done 「…したかもしれない」/ must have done 「…したにちがいない」/ cannot have done 「…したはずがない」 should have done 「…すべきだったのに」	○	○	○	○	○	ていねいさを表す助動詞、過去のことに対する推量を表す助動詞を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト	○	○	○	○	1

Listening	Graphs							比較					
L18 比較①【知識及び技能】「～の何倍」「～と同じくらい」などを表す比較表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】「～の何倍」「～と同じくらい」などを表す比較表現を理解し伝えている。【学びに向かう力、人間性等】「～の何倍」「～と同じくらい」などを表す比較表現を理解し積極的に伝えようとしている。	as +原級 + as + S + can 「できるだけ～」 / X倍+as+原級+as+A 「AのX倍の～」 / as + 原級+名詞+as+A 「Aと同じくらい～な名詞」 not so much +A+as+B 「AというよりはB」 / less ～ than+A 「Aほど～でない」	○	○	○	○	○	「～の何倍」「～と同じくらい」などを表す比較表現を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト		○	○	○	1	
Dictation	Less than half of							one-third as tall as					
L19 比較②【知識及び技能】「ますます～」、「何番目に～」などを示す比較表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】「ますます～」、「何番目に～」などを示す比較表現を理解し伝えている。【学びに向かう力、人間性等】「ますます～」、「何番目に～」などを示す比較表現を理解し積極的に伝えようとしている。	差を表す比較級 / 比較級+and+比較級 「ますます～」 / the+比較級～, the+比較級～, the+比較級… 「～すればするほど…」 the+序数+最上級	○	○	○	○	○	「ますます～」、「何番目に～」などを示す比較表現を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト		○	○	○	1	
Listening	Conversation 1							仮定法					
L20 比較③【知識及び技能】最上級を使わなくても最上級の意味を示す比較表現を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】最上級を使わなくても最上級の意味を示す比較表現を理解し伝えている。【学びに向かう力、人間性等】最上級を使わなくても最上級の意味を示す比較表現を理解し積極的に伝えようとしている。	最上級の意味になる表現Nothing is as[so] ～as+ A 「Aほど～なものはない」 / no more ～ than … 「…でないのと同様に～でない」 / no more than ～ 「わずか～」	○	○	○	○	○	最上級を使わなくても最上級の意味を示す比較表現を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト		○	○	○	1	
Dictation	get rid of							what I've been thinking about					
L21 条件構文① 【知識及び技能】直接法とI wish～を使った仮定法の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】直接法とI wish～を使った仮定法の用法を理解し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】直接法とI wish～を使った仮定法の用法を理解し伝えようとしている。	If+S'+V 「もし～なら」(直接法) unless+S'+V 「もし～しないならば」(直接法) / as long as+S'+V 「～する限り」(直接法) S+wish+S'+did 「～すればいいのに」 / S+wish+S'+had done 「～すればよかったのに」	○	○	○	○	○	直接法とI wish～を使った仮定法の用法を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト		○	○	○	1	
Listening	Documentary							長い文					
L22 条件構文② 【知識及び技能】仮定法過去 仮定法過去完了の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】仮定法過去 仮定法過去完了の用法を理解し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】仮定法過去 仮定法過去完了の用法を理解し伝えようとしている。	If+S'+did, S+would[could] do 「もし～ならば、…するだろうに」 If+S'+had done, S+would[could] have done 「もし～だったらならば、…だったらろうに」 If it were not for～「(現在)もし～がなければ」(仮定法過去)/ If it had not been for ～「(過去に)もし～がなかったら」(仮定法過去完了) It is time + S'+did 「～してよいころだ」	○	○	○	○	○	仮定法過去 仮定法過去完了の用法を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト		○	○	○	1	
Dictation	had better							not only but also					
L23 条件構文③ 【知識及び技能】as if ～を使った表現や、起こる可能性が低いことを表す仮定法の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】as if ～を使った表現や、起こる可能性が低いことを表す仮定法の用法を理解し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】as if ～を使った表現や、起こる可能性が低いことを表す仮定法の用法を理解し伝えようとしている。	as If+S'+did, 「まるで～であるかのように」(仮定法過去) / as If+S'+had done 「まるで～であったかのように」(仮定法過去完了) If +S'+should ～「万一～なら」 If+S'+were to ～ 「仮に～なら」 if節を用いない仮定法	○	○	○	○	○	as if ～を使った表現や、起こる可能性が低いことを表す仮定法の用法を理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト		○	○	○	1	
Listening	Time Order							順序を表す表現					
L24 英語理解と表現のコツ③ 【知識及び技能】様々な「～がある」の表現の仕方と代名詞を使った表現を確認・理解している。 【思考力、判断力、表現力等】様々な「～がある」の表現の仕方と代名詞を使った表現を確認・把握し伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】様々な「～がある」の表現の仕方と代名詞を使った表現を確認・積極的に把握し伝えようとしている。	表現の仕方を工夫する。代名詞を使った表現: Some～, others… that of ～ those who～	○	○	○	○	○	様々な「～がある」の表現の仕方と代名詞を使った表現を確認・理解し設問に解答できている：活動の観察 ノート ハンドアウト		○	○	○	1	
Dictation	as soon as							I saw such animals as					

[illegible]

高等学校 令和6年度（3年次用）教科 総合的な探究の時間

教科：総合的な探究 科目：探究Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～7組

使用教科書：（なし）

教科 総合的な探究 の目標：

- 【知識及び技能】 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目 探究Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、これまでの自己の学習成果を往還しながら、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識・技能を身につける。	社会的現実にもとらされ、よりよい生き方を選択することができるよう、これまでの自己の学習成果を往還しながら、自己と社会の関わりから課題を見出し、情報を集め、整理分析して、多面的多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、これまでの自己の学習成果を往還しながら、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いの個性を尊重し最大限活かすことで、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
前期	感覚的なコミュニケーションを学ぶ① (思考・判断等)	◎ 指導項目 ・「信頼」について理解を深める ・相互理解について理解を深める	(思考・判断等)グループの凝集性について、思考し、判断することができる		○		6
	感覚的なコミュニケーションを学ぶ② (知識・技能)	◎ 指導項目 自己の感情を表出することについての抵抗感(バリア)を低くする	(知識・技能)心理安全性についての理解をしてる	○			6
	班内のコミュニケーションを促進する① (知識・技能)	◎ 指導項目 自己理解と他者理解の深化	(知識・技能)コミュニケーションの取り方について考察している	○			6
	班内の合意形成について学ぶ① (思考・判断等)	◎ 指導項目 価値観の相違について理解する	(思考・判断等)グループプロセスを意識したかわり方について考察しているか		○		6
	班内の合意形成について学ぶ② (学びに向かう力)	◎ 指導項目 コンセンサス(合意)について考える	(学びに向かう力)コンセンサス(合意)という集団の意思決定に挑戦する			○	4
	班内の合意形成について学ぶ③ (知識・技能)	◎ 指導項目 他者との価値観や捉え方の違いと向き合い、折り合う	(知識・技能)コンセンサス(合意)とは何かを知り、グループで何かを決める(意思決定)ときの手法を理解している	○			4
	班内の合意形成について学ぶ④ (学びに向かう力)	◎ 指導項目 他者との価値観や捉え方の違いと向き合い、折り合う	(知識・理解)互いに望ましい教師像を伝えあうことによって、教師のあるべき姿について考えるとともに、今の自分を見つめ直す			○	4
後期	プロジェクトについて知る (知識・技能)	◎ 指導項目 社会貢献という視点について知る	(知識・理解)社会貢献に資するプロジェクトについての理解を深める。	○			4
	世の中の困りごとについて知る① (知識・技能)	◎ 指導項目 企業や団体および自治体の課題について知る	(知識・理解)世の中の課題と社会貢献に資するプロジェクトについて理解を深めている。	○			6
	世の中の困りごとについて知る② (思考・判断等)	◎ 指導項目 企業や団体および自治体の課題について知る	(知識・理解)世の中の課題と社会貢献に資するプロジェクトについて往還しながら思考している		○		4
	プロジェクトを進める (学びに向かう力)	◎ 指導項目 ・プロジェクトの進行管理	(学びに向かう力)PDCAサイクルによる活動ができているか。			○	16

	プロジェクトを振り返りまとめる (思考・判断等)	◎ 指導項目 ・プロジェクトの質的・量的成果をまとめ 発表する	(思考・判断等)活動の考察と、今後に向けた成果や 課題の一般化(日常に活かす)視点が養われてい る。		○		4
							70